

2016年8月1日

札チャレラジオ通信 第30回

栄田：三角山放送局をお聴きの皆さん、こんにちは。札チャレラジオ通信です。私はパーソナリティーのNPO法人札幌チャレンジドの栄田です。よろしくお願いします。札チャレラジオ通信は、自立を目指す障害のある人がITでマザル、ハタラク、拓き合う社会を作りたい、との思いで活動しているNPO法人札幌チャレンジドが毎週月曜日の午後3時から30分間お送りしています。2016年の1年間、札幌チャレンジドの活動内容をお伝えしていきます。今週は、栄田と赤坂が担当します。赤坂さん、よろしくお願いします。

赤坂：よろしくお願いします。

栄田：今回はいつもサブで入っている2人がなんと、MCというかメインですることになってとってもとっても緊張しているんですけど、赤坂さんはいかがですか？

赤坂：はい、頑張りましょう。

栄田：頑張りましょう。今日はフレッシュな感じで頑張っていきたいと思いますので、皆さん最後までお付き合いよろしくお願いいたします。今日のゲストは札幌チャレンジドの就労移行支援サービスの卒業生で、現在、社会福祉法人札幌市社会福祉協議会の職員として働いている酒井宏晃さんです。酒井さん、こんにちは。

酒井：こんにちは。

栄田：よろしくお願いします。

酒井：お願いします。

栄田：緊張してますか。

酒井：緊張してます。

栄田：はい、ではですね、緊張しているということなんですが、まずはですね、自己紹介をお願いします。

酒井：はい、ご紹介にあずかりました、札幌市社会福祉協議会総務課総務企画係で職員をしております、酒井と申します。よろしくお願いいたします。まずはですね、私の障害特性というのをですね、ひとつ言っておきたいな、と思ったんですけども。車いすに乗ってですね、脳性麻痺なので、車いすに乗って普段は通勤、それから仕事もしております。そして、そうですね、何言おうかなと思ったんですけども。そうですね、緊張してますね。

栄田：緊張してますね。

酒井：こういう感じの、そうですね。普段の通勤も近いところにあるので、すごくやりやすいところで働いております。

栄田：はい、ありがとうございます。ご自身は車いすに乗っているということだったんですけど、札幌っていったら結構、冬になると雪が多いので結構大変かなと思うんですけど、冬道はいかがですか？

酒井：冬道はですね、仕事に行くにしてもどこか行くにしても、やはり車が必要なので、通勤はやはりタクシーを使って、業者を使って通勤してますね。

栄田：ありがとうございます。ではですね、これから酒井さんにいろいろとご質問をさせていただきたいな、と思ってまして。まずはですね、札チャレに通所するようになった経緯を教えてください。

酒井：わかりました。まずはですね、もともと就職とは別な要件で相談事がありまして、相談室ぽぽというところに相談した時に、いろいろな相談を受けてくれるということだったので、その時にきっかけが欲しかったので、就職もちょっと考えてるんですけどという相談をしたら、まずはですね、とねっとさんに紹介していただいて、とねっとさんから今度札幌チャレンジドを紹介していただいて、見学をさしてもらって、ここだったらいいなと思ってですね、通所しようかなと思って、はい。

栄田：ありがとうございます。札幌にはいろいろと移行支援事業所が結構たくさんあると思うんですけど、その中で札チャレにしようって、なぜここにしようと思ったかっていう理由を教えてくださいてもよろしいですか？

酒井：札幌チャレンジドという名前も、大学時代に加納さんが講義に一度来てくださっていたので、それで名前は知っていたので、そういう意味でも安心できるなと思ったのと、職員さんの明るさも分かっていたので、そういうのも行きたいなと思った一つの理由です。

ね。

栄田：ありがとうございます。スタッフが明るいということで。

酒井：本当にそうですよ。笑ってますけど、実際にそうですよ。

栄田：本当ですか、ありがとうございます。それは嬉しい限りですね。ありがとうございます。ではですね、続きまして酒井さん、今、社協でお仕事をされているということだったんですけど、社協でどんなお仕事をされていますか？

酒井：そうですね、いろいろなお仕事はもちろんしているんですけども、内部の仕事がだいたい全体の8割ぐらいを占めて、外部に対するお仕事をだいたい2割ぐらいしてますね。内部の仕事でいいますと、一つあるのが毎週の日程表作成っていうのがありまして、係長から一番上の常務の仕事まで、一週間どういう仕事があるっていうのを Excel で作成して、それを毎週配るといふのがあるんですよ。ちなみにですけども、たとえば札幌チャレンジドさん、面談に来てくれると思うんですけども、そのことも一応日程表の中には組み込んだりもしているんですよ、一つ例を挙げるとすれば。毎回、ネットにはあるんですよ、日程が全部あるんですけど、それを打ち込んで一回、いろんな課に全部持ってって追加してほしいものとか消してほしいものをまた新たに書いてもらって持ってきてもらって、またそれを打ち込んで、またそれをお渡しするっていうのをやるのが一つと。外部のお仕事なんですけど、名義講演っていうのがありまして、よく講座とかいろんなことをしたいから名前貸してくださいってことで来るので、それに対していいですよっていう書類を作ってお渡しするっていうお仕事をしていますね。

栄田：今、酒井さんはパソコンをメインとしてお仕事をされているんですかね。

酒井：そうですね。基本的にはパソコンがメインになりますね。あとは、書き仕事というか、発送作業とかいろんなことをするので、パソコンがメインですけど、たまにいろんなことができるので、疲れという意味では、無いかなと思いますね。

栄田：今のお仕事にやりがいを感じていますか？

酒井：そうですね。いろんな人からお仕事もいただけてるし、というのもあるので、他の人の仕事を一つでも自分がやれば、別の職員さんが自分の仕事がまたできるので、そういう意味でもちょっとでも助けになればなと思ってやりますし、そういう意味ではやりがいとしては、いろんな意味で感じていますね。

栄田：ありがとうございます。酒井さんは札チャレにいた時から、本当にいろんなことに対してすごく責任感を持って最後までやり遂げてくださっている方なので、会社に勤めても大丈夫かなと安心はしていたんですけども、その頑張りが認められているのになって、すごく私たちも感じているところではあります。

酒井：ありがとうございます。

栄田：はい、ありがとうございます。ではですね、札チャレに通所していた時に様々なプログラムを受けていたかと思うんですけども、今、役に立っているなど感じるものがあればぜひ教えていただきたいと思います。

酒井：基本的にはですね、札幌チャレンジドで行っているカリキュラムで無駄になるようなカリキュラムは無いのは事実なんですけれども、特に今、役に立っていると思うのは「メモを取る」というのをやると思うんですけども、あれがすごく役に立ってましてね。なぜかといいますと、電話対応もやはりするんですよ。その時に「誰々さんにつないてください」と言われた時に、いればもちろんすぐにつなげられるんですけど、いない時もあるので、そうした時に「こういうこと伝えてください」とか「どこどこに連絡ください」と言われた時にメモを取らなくてはいけないので、そういう意味では、ちゃんと聞くっていう意味では、たまに失敗することもなくはないんですけども、そういう意味ではメモを取るっていうのはいいことだになってということで、あの時役に立っているなっていうのは思いますね。

栄田：はい、ありがとうございます。そうですね、札幌チャレンジドの移行支援のプログラムの中で、ビジネスマナーのメモの取り方ですね。

酒井：そうですね。

栄田：行って、その時も酒井さんね、しっかりとメモをとって実践できていたので、それがね、今もね、発揮されていてすごいなというのはね、ありますね。

酒井：そうですね、ありがたいですね。

栄田：こちらとしても嬉しいですね、やっぱり、役に立ってるって言われたらね。

赤坂：そうですね。

栄田：こちらとしてもやりがいがあるなと思うので。ありがとうございます。はい、ではです
ね、なんだかんだ言いながら、もう前半のお時間が過ぎてきそうなので、ここでですね、
酒井さんからのリクエスト曲をかけたいと思うのですが。

酒井：はい。

栄田：酒井さんのリクエスト曲を教えてくださいよろしいでしょうか。

酒井：はい。いきものがかりさんのですね、「夏空グラフィティー」という曲がありまして、
そちらを今回お願いしたいなと思います。

栄田：はい。なぜこの、いきものがかりさんの「夏空グラフィティー」を選んだんですか？

酒井：えっとですね、理由が二つありまして。いきものがかりのファンクラブに入ったのが
一番、本当に初めて入ったのがいきものがかりさんでして、それがまず一つと、今日はすご
く暑くてですね、夏にぴったりの曲は何かなと思ってパッと思い浮かんだのがこの曲だっ
たので、この曲にしようと思いました。

栄田：ありがとうございます。いきものがかりさんね、すごくいいですね、やっぱりね。

酒井：そうですね。

栄田：歌詞もね、グッとくるような曲も多いですね。声もすごくいいですね。はい、あ
りありがとうございます。ではさっそく、酒井さんのリクエスト曲、かけさせていただきたいと
思います。いきものがかりさんの「夏空グラフィティー」です。お願いします。

栄田：午後 3 時からお届けしている札チャレラジオ通信。今日のゲストは札幌チャレンジ
ドの就労移行支援サービスの卒業生で、現在、社会福祉法人札幌市社会福祉協議会の職員の
酒井宏晃です。後半からは赤坂さんから質問をお願いしたいと思います。お願いします。

赤坂：はい、よろしく申し上げます。ということで、酒井さん、後半は私が質問しますので。

酒井：はい。

赤坂：よろしくお願いします。はい、少し緊張していますが。ではですね。前半の話の中にもちょっとあったんですけども、就労移行支援サービスはですね、利用者の方に通所していただく中でたくさんいろいろなプログラムを受けていただいて就職を目指していくわけなんですけども。就職した後ですね、そこで終わりってわけではなくてですね、職場定着支援とよく言われるんですけども、長く働き続けるための支援というのもですね、義務付けられているんですね。大体目安は3年くらい。就職してから3年くらいが一応、目安になっているんですけども、札幌チャレンジはその期間を過ぎても継続的な支援をしていますね。主には、職場訪問ですとか、卒業生茶話会などを行っています。酒井さんにもですね、毎月、酒井さんの職場に訪問して、私とか、大山さんとかが行って、酒井さんと酒井さんの上司の方と面談をさせていただいたりとかですね、茶話会にも前回参加していただきましたけれども。そういった支援ですね、就職してからも支援が続いていくってことをですね、卒業生としてはそういった支援はどう感じていますか。

酒井：私なんかはやはり初めての働くということだったので、やはり不安なこともありますし、どうしていいかわからなくなることもあるんですけども、そうした時に1ヶ月の中で1回でも今までお世話になっている方が1回来てくれるというのは正直、心のゆとりを持つ意味でもすごくいいものだなと思いますし、もちろん働くのが初めてじゃないけども、今まで働いてなくて今これから働いていく人でも、そういう意味では、いい制度じゃないかと思いますね。

赤坂：ありがとうございます。毎月、酒井さんのところに私も面談に行かせていただくんですけども、一番最初の頃は酒井さんも上司の方とかも緊張されてという感じだったんですけど、回数を重ねていくごとにですね、酒井さんが仕事に慣れてきたんだなっていうのも分かりますし、上司の方ともうまくいってるんだなとか職場でうまくいってるんだなという様子がすごくよく見れて私たちもほっとするといいますか。元気に働いてる姿が見れてほっとするなというところもあるんですよ。酒井さんは前半の話にもありましたけど、すごく電話対応もされているということですね。一日に何件取るって言ってまして、さっき。

酒井：大体30件とか40件くらいは多分取る時は取ると思うんですよ。

赤坂：そうですね。まだ酒井さん、勤めて一年経たないくらいなんですけれども、それで一日に30件取ってるっていうのは、すごく私もびっくりして。いろんな電話がかかってくると思うんですけども、結構大変なこととかありますか、電話対応で。

酒井：そうですね。たとえば問い合わせとかがあった時に、どこの部署に回したらいいのかっていうのが判断つく時とつかない時がやはりまだありますし、そういった時に聞いたりして、他の人にね、回すこともあるんですけど、なるべくだったら 1 回聞いて、それで他の部署の方に 1 回で回せた方がお客様にはね、ご迷惑をかけなくて済むなっていうのは思いながらですね、やってるんですよ。始めの頃に比べれば、どこに回したらいいとか、「ここじゃなくてここにかけてください」とかって言えるようにはなったんですけど。でもまだまだですね、部署といってもたくさんありますので。私、3 階にいるんですけども、2 階から 4 階までが私たちの事務所になっているので、本当に部署が多いし、人が多いので、たとえば佐藤さんといわれてもどこの佐藤さんなのかっていうのが分からなかったりすると、こういう用件でって言われると、「こっちの佐藤さんだな」っていうのが分かるので、回せたりとかもありますし、これでも、それを聞いても分からないっていう時になると先輩の人をお願いしたりとかあるので、本当はでもね、自分でできればベストだなとは感じながらやっているんですけど、まだまだですね。

赤坂：それでもね、最初の時よりは少しずつできてることが増えていってるんじゃないかなっていうのは面談してても感じているんですけども、本当にそれはすごいなといつも面談をする度にですね、ちょっと思っているので、その調子で頑張ってくださいっていう感じですかね。あと卒業生茶話会もね、この間ありましたけれども。

栄田：そうですね。

赤坂：どうでしたか、参加してみて。

酒井：そうですね。今回でというか 2 回目なんですけれども、やはりこう、いろいろなところで働いている人と交流を持てるっていう意味でもいいですし、やはりこう、面談とかでスタッフの方とはお会いしますがそれ以外だとほとんど会える機会って実は無いんですよ。私なんて仕事が終わってから行こうかって思っても札チャレさんも終わっているというがあるので。

赤坂：すみません。

酒井：いいんですよ。それは個々の事業所のあれなのでいいんですけど。そういう場があるってことはいいことですし、やはりなんていうんだろう、そういう集まりに参加するっていうのが、すごく意味があるので。というのは、やはり会社に入ってもですね、今もそうなんですけど、年に何回か各部署とか中央区社とか、いろいろな社協があるんですけど、その人方がいっぺんに集まってやるそういう集まりとかもあるんですよ。そうした時に出な

いよりは出てた方がいろんなことが分かるので、一番初めはすごく緊張してあれだったんですけど、そういった意味でもちょっとした練習じゃないですけど、そういったところに出るのもいい経験の一つじゃないかなと思うんですよね。

赤坂：大事ですよ、そういうコミュニケーションも。今もやっぱり大事ですよ。ありがとうございます。また秋ごろにも卒業生茶話会は予定しておりまして、その時には外で食べたりとかもしようかなと思っているので、もしできたらその時も参加してください。

酒井：ちゃんと参加しますよ。

栄田：ありがとうございます。

赤坂：よろしくお願いします。はい、では次の質問に移りたいと思います。最後の質問になるんですけども、酒井さんのですね、今後の目標を教えてくださいませんか。

酒井：目標ですか。先ほども言ってしまったんですけども、電話対応ですね。やはりそこが一番大事じゃないかなと思っているのでなるべく自分で取れるようになっていうのは、出たはいいけど自分で全然対応できないんだったらそれも申し訳ないのでっていうのはあるので。あとですね、もう一つあるのが、さっき名義講演って言ったじゃないですか。その時に、名義講演する時に講演理由っていうのを作るんですよ。そうした時に、どういう団体でこういうことをするので講演をしますっていう文章を、一連の流れのものを作るんですけども、そういった時に自分でなかなか文章を作れないっていうのがあってですね。先輩の人と協力しながらというか、先輩っていてもほとんど直してくれるんですけども、まあ、それで作って提出っていう形になるので、なるべくであれば自分で全部作って出せた方がその人の負担にもならないですし、そこも国語力といいますか、っていうのがまだまだ乏しいのかなと。この間ね、初めて自分で作って一回も何もなく通ったのが一度だけあったんですけど、やっとかというのが思いましてですね。

赤坂：いやいやいや、素晴らしいですね。

酒井：なので、いろいろなどういう団体でっていう情報をいただくので、情報がいっぱいある時と、残念ながら無い時といろいろなパターンがありますので、そういった時に、じゃあどうやっていくのかっていうのはまだまだ勉強しなきゃなとか、慣れていかなきゃいけないのかなという、思ってますね。

赤坂：そこもやっぱり経験というかですよ。

栄田：そうですね。

赤坂：これからたくさんそれを積み重ねて、いつかは全部自分でできるようになっていうところもあると思いますよね。

栄田：なんかこう、いろいろとお話ししていると、やっぱり酒井さんって向上心があると思いますか、何事に対してもやっぱり前向きに捉えられていて、そこが素晴らしいなと思ってね。改めてね、今日、聞かせていただいて思ったんですよね。うん、なので。

赤坂：なんか面談みたいに。

栄田：面談みたいになってますね、いつものね。なのでね、やっぱりね、これからもね、そういう酒井さんでね、一個ずつ自分のペースでね、どんどんどんどん成長してもらえたらなっているのがあるので。あとねすごく、酒井さん、ラジオなので見せることはできないんですけど、すごく笑顔が素敵なんですよね。

赤坂：うんうん、そうですね。

酒井：そんなことはないですよ。大したことないですよ。

栄田：本当ですか。すごく柔らかい方なので、ラジオで見せられないのがね、残念なんですけど。その笑顔もね、これからも大切にさせていただけたらなと思います。ということでそうこうしているうちにですね、実はあっという間に。

赤坂：早いですね。

栄田：早いですね。もう最後の時間になってきてしまいましたが、酒井さん今日はいかがでしたか？初めてで緊張していたってことだったんですけど。

酒井：そうですね、前半はドタバタしまして大変申し訳なかったなと。後半はね、若干まともだったんじゃないかなと思うので、それで勘弁してください。

栄田：いえいえ、やっぱりね、最初ってなんでもね、緊張しますよね。

酒井：そうですね。顔が見えないからそんな緊張しないかなと思ったんですけど、十分に緊

張しました。

栄田：十分に緊張しました。はい、ありがとうございます。はい。それでは今日は、札幌チャレンジの就労移行支援サービスの卒業生で、社会福祉法人札幌市社会福祉協議会の職員の酒井宏晃さんにお越しいただきました。改めまして、酒井さん本日はありがとうございました。

酒井：ありがとうございました。

栄田：ぜひまた機会があったら2回目もね、あったら。

酒井：こんなんでもよければいつでも呼んでください。

栄田：すごく声もね、いいので。

赤坂：そうですね。

栄田：またぜひね、お願いできたらなと思っていますので、よろしくお願いします。

酒井：はい、お願いします。

栄田：はい、ではですね、お時間になりましたので、また来週ですね、皆さんお会いしましょう。さようなら。

赤坂：さようなら。